

日本点字普及協会 事務局だより 第4号

(2014年6月30日)

26年度の事業にご協力ください

理事長 藤野 克己

4月26日(土)に開かれた日本点字普及協会平成26年度通常総会で、高橋實理事長の辞任と、新たに二人の理事、一人の監事の就任が決まりました。

高橋實さんは、この協会の立ち上げからNP0認証1年目の大事な時期を先頭に立って進めてくださいました。役員任期は2年ですから、本来であればもう1年あるのに役員そろって慰留したのですが、昨年8月に本拠地を大阪に移されて辞意が固いため、残念ながら引き留めることができませんでした。ただし、個人会員としては引き続き活動なさると伺っていますので、今後もよろしくお願ひしたいと思います。

総会後の理事による互選で、私が理事長になりました。私は、この協会の理事長は点字常用者になった方がよいと常々思っているのですが、今回は任期途中ということもあり、ワンポイントリリーフで引き受けることにしました。引き受けた以上は頑張りますので、皆さん、ご協力くださるようお願いいたします。

総会では、25年度事業報告・決算、26年度事業計画・予算が承認され、これを受けて6月22日(日)に行った理事会で、26年度の事業の進め方を協議しました。

2年目を迎えた当協会は、前年度の事業をさらに充実することを目標に進めます。主なこととして、①日本点字制定記念日である11月1日(土)に、サイトワールド会場を使わせていただいて、「日本の点字、きょう124歳～講演と体験・機器展示～」をテーマに、点字に関するお二人の講演と、Lサイズ点字触読体験、機器展示、相談コーナーの設置などを行うほか、②Lサイズ点字のプリントサービスを開始して、一層の普及に努めます。また、③凸面点字器開発については、外部業者との連携によって、実現を目指します。

このように、点字普及協会の看板を掲げて行う事業はもちろん大切ですが、点字普及活動の基本は、会員お一人お一人がそれぞれの地域で地道に取り組むことだと思います。それらの活動をホームページの会員ページで情報交換しながら、進めていきたいと思っています。

総会の議事終了後に、日本点字図書館・和田勉氏をお招きして「点字サインについて」講演していただきました。

講演を聴講したお二人の会員の方に、感想を寄せていただきましたので、ご紹介いたします。

点字は効率的に読める大切な文字 一点字サインの講演感想

廣重 やすよ

毎年4月の授業の導入期に扱う街中の点字。あちこちで見かけた目撃情報を尋ねると教室にはにわかに活気づき、点字サインがいかに世の中に広がっているのかを実感します。しかし、その体系的な内容についてこれまで正しく知る機会がなかったので、今回の和田先生のご講演を大変楽しみにしておりました。

点字サインの定義・歴史・点字サイズの話はどれも新鮮でした。1960年代の「発明期」から、専門施設が製作していた「黎明期」「発展期」、建設の現場で製作されるようになった「拡大期」を経て、日本工業規格(JIS)による標準化が始まる2000年代の「標準期」。時代区分は独自に名づけられたそうですが、点字サインの進化の過程がとてもよく分かりました。

当日はパワーポイントの不調でせつかくのスライドを見ることは出来ませんでした。大変具体的に説明していただき、また次々に実物が回覧され、加工方法や材質の異なった点字サインに直接触れられ面白かったです。中には、点字の高さを出すためにUV点字を1回から8回まで刷り重ねたものもあり、良心的な業者さんの努力に目をみはりながら指先への刺激を比べることが出来ました。

また、日本のアクセス可能なデザインが世界へと広がり、点字サインの国際規格化(ISO 17049)につながったと知り、そもそも欧米からもたらされた日本の点字の歴史からするとこれは凄いことだなと思いました。

点字毎日6月5日付に、音案内にJIS規格が制定され、内方線付の駅ブロックも規格に取り入れる改正がされたという朗報を見ました。今後もJISによって標準化されることで、目の不自由な方が安心して街中を歩行・移動できますように願っています。

そして、最後の章の「点字サインの点字表記を考える」が、点訳ボランティアの私としては一番興味深かったです。関東式・関西式があった手すりの矢印の位置の話や、可動柵の表示に読点や中点の工夫がある話、各階案内板の点字表記を現在地から積み上げて点訳する大胆な方法等々、初めて聞く別世界の話でした。点字サインは究極の触読文字情報なので、「情報を整理する」ことが大切という言葉が印象に残りました。そして、触覚で情報を得るには、点字は効率よく読める大切な文字だということを改めて認識しました。

長くても1行40マスを超えない制限の中、各地で色々な工夫が見られる点字サイン。おかげさまで、街中で点字サインを見つけると、エンボス加工かな、UV点字かな、どんな書き方してるんだろうと、つい立ち止まって読むようになりました。また、東京は可動柵をはじめ地元では見かけないものが沢山ですので、総会に参加する楽しみも増えました。

今回学ばせて頂いた貴重な内容は、ぜひ福祉を目指す学生さん達や志を同じくする点訳ボランティア仲間に伝えようと思います。和田先生、ありがとうございました。

点字サインの講演を聞いて

伊藤 聡子

点字サインについての和田さんのお話しは、以前日本点字技能師協会の研修会でも聞かせていただいたことがあるのですが、街中の点字を点検するのが大好きなので、大変楽しく、そして興味深く聞かせていただきました。

ふだんから駅の手すりや電車内のドアの点字表示には大変お世話になっておりまして、階段で立ち止まって読んでいると、困っている人と勘違いされ、「大丈夫ですか」と声をかけられるくらいです。特に新宿駅の手すりは乗り換え方面やコンコースのことまで3行びっしり書いてあるので、それだけ長く立ち止まってしまいます。でもこれらの点字のおかげで、あまり行ったことのない駅でも一人で乗り換えることができます。ほかにも触知案内板や運賃表などを見るのも好きで、時間があるときはじっくり触ります。しかし、きれいなことが少なく、手が汚れてしまうのが難点です。

私は、点字のシートがはがれかけていたり、点がつぶれていたり、マスあけが間違っていたり、図が分かりづらかったりすると、いつもその管理者や製作者にもの申したくなくなっていました。しかし、その際には現物の写真が必要と聞いていましたので、これまで苦情を言うことができずにいました。今回お話しを聞いて、写真がなくても鉄道事業者や管理者に連絡してみようかと思いました。それと点字に詳しい者として、点字サインの問い合わせがあった際にアドバイスできるように、J I S規格についても正しく言えるようにならないといけないと感じました。

それから地方ごとや路線ごとに書き方がちがうのも面白かったです。出席者からこういうのを見たことがあると次々と手が挙がり、話しが尽きない感がありました。おそらく製作会社ごとに特徴があるかと思しますので、機会がありましたら、その辺も教えていただきたいです。

最後に、これは以前から考えていることなのですが、点字を読むのに時間がかかる中途視覚障害者向けに、あるいは歩行訓練や点字指導の教材用に、実際に使われているエレベーターや駅の手すりなどの点字をじっくり触れる事例集のようなものを作ってはどうか。それは、せっかく街中に便利な点字があふれていても、読むのに時間がかかるからと活用していない方が多いと思われるからです。またそれらに点字が付いていること自体知られていないかも知れません。

一度どんなものか見ておくことで、推測も働きやすくなり、読みやすくなるでしょうから、使ってもらえるようになると思います。点字出版所などの協力が become 必要になるかと思いますが、点字習得の新たな動機づけにもなりますので、点字の普及に一役買えるものをぜひ作ってほしいです。

今回も点字サインについて、実物を交えて詳しく伺うことができました。和田さんがずっと研究し続けておられることは、私たち視覚障害者にとって本当に有り難いことで、頭が下がります。どうもありがとうございました。